

令和 7 年 8 月 2 2 日

## 令和 6 年度 特別の教育課程の実施状況等について

鳥取県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鳥取市立青谷中学校	鳥取市教育委員会	公立

## 1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
鳥取市立青谷中学校	<a href="https://sites.google.com/g.torikyo.ed.jp/aoya-jhp/%E6%8E%A2%E7%A9%B6%E3%81%82%E3%81%8A%E3%82%84">https://sites.google.com/g.torikyo.ed.jp/aoya-jhp/%E6%8E%A2%E7%A9%B6%E3%81%82%E3%81%8A%E3%82%84</a>

※必要に応じて行を追加すること。

## 2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
鳥 取 市 立 青 谷 中 学 校	<a href="https://sites.google.com/g.torikyo.ed.jp/aoya-jhp/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E8%A9%95%E4%BE%A1">https://sites.google.com/g.torikyo.ed.jp/aoya-jhp/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E8%A9%95%E4%BE%A1</a>	

※必要に応じて行を追加すること。

## 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

## (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・ 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ( 実施している  
 実施していない)

<特記事項>

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

特別の教育課程「探究あおや」では、「ふるさと青谷の自然、文化、歴史について、様々な人とのつながりの中で探究的に学ぶことを通して、ふるさとを思う心や課題を解決し未来を切り拓く力を養い、主体的に自己の生き方を考える生徒を育成する」という目標を掲げ、特別に教育課程を編成して実施した。

3年は「海」、2年は「紙」、1年は「大地」のテーマを設け、サーフィン体験、青谷かみじち遺跡や青谷の伝統産業である和紙に関わる体験活動を行って、ふるさと青谷のすばらしさや魅力を学ぶ機会を設け、その上で、これらの活動を探究的な学びへと結びつけた学習活動を行った。

また、探究的な学習活動のまとめとして、3年生は文化祭での発表、2年生は鳥取県探究成果等発表会への参加、1年生は探究的な学習をまとめたスライドづくりなど、青谷の魅力を発信することに力を入れて実施した。

学校評価アンケート等を実施し、以下の結果となった。

- ・今住んでいる地域の行事に参加している（肯定的回答81% ※昨年度71%）
- ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある（肯定的回答69% ※昨年度48%）
- ・「探究あおや」では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる（肯定的回答82% ※昨年度80%）

これらのアンケートの結果から、昨年度に引き続きふるさと青谷を思う心や、主体的に課題の解決に向けて動こうとする姿勢が育ちつつあることが伺える。

今後の課題として、中学校3年間だけではなく15歳になるまでの長期的な学びになるように、地域で教育課程を共有し、どんな力を育みたいか、どんな姿になってほしいのかを考え、地域で子どもを育てていく意識を今まで以上に高めていきたい。

また、「探究あおや」での学びが他の教科や実生活の中でより生かせるように共通の視点を設定し、教科横断的に探究的な学びに向かう力を育てていけるように取り組んでいきたい。

## (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

学校教育目標は「少数精鋭～自らの未来を切り拓く青谷町教育の推進～」であり、取り組みの3本柱として、①学力の向上、②「探究あおや」の推進、③社会的自立のために必要な社会性の定着を掲げた。そのうち、①「学力の向上」と②「探究あおやの推進」は往還する関係であり、「探究あおや」の取り組みを充実させていくことが学力向上につながると考えた。また、探究的な学びの視点は③社会的自立のための社会性の定着にも大きく関わっていると考える。

探究的な学びの視点をもって様々な活動に取り組んでいくことで、学力向上と社会性の定着の両方をより効果的に育てていくことができると期待している。探究的な学びの視点との相関を調べるためにも、アンケート等を活用し、生徒の有用感や実際の学力に関わる数値等との関係を見ていく必要がある。

## 4. 課題の改善のための取組の方向性

課題改善の方向性として大きく2つのことに取り組んでいきたい。1つ目は、探究的な学びを充実させるための共通の視点を設定し、教科横断的に生徒につけさせたい力を育てていくこと、2つ目は、探究的な学びのスキル（以下、「探究スキル」）を育成していくことが学力向上につながっているのかどうかを調べていくことである。

まず、探究的な学びのための共通の視点として、①課題の発見・計画、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の4つの学習プロセスと、それぞれのプロセスで目指す姿を示したルーブリックを教員、生徒ともに共有し、「探究あおや」だけでなくどの教科でも探究的な学びを意識して取り組んでいけるようにしたい。例えば、各教科の授業の中でも「探究スキル」のどのプロセスに関わっているのかを掲示しながら授業を行うことで、教員、生徒ともに探究的な学びにつながっていることを意識することができ、学力向上かつ「探究スキル」の育成につながると考える。そして、ある教科で育んだ「探究スキル」が他教科での学びにも生かされるなど教科横断的に「探究スキル」を育み、学力向上にも結び付けることができると期待している。

また、「探究スキル」に対する生徒の自己評価と学力に関わる客観的なデータ等がどのように結びついているのかを調べることで、指導の方向性の改善などに役立てていきたい。そして、生徒自身にも自己評価の結果を共有することで、「探究スキル」が自身の学力とどの程度関わっているのかを気づかせることにもつながると考えている。それらをより効果的な取り組みにするためにも、「探究スキル」を育むことに関する職員研修を実施した上で、「探究スキル」を共通の視点とした研究授業を実施したい。各教科での学びと「探究あおや」での学びが「探究スキル」を軸としてつながっていくという意識を指導者側が持つことにより、「探究あおや」の指導に対する意欲の向上にもつなげたい。また、本年度の取り組みを小学校や地域とも共有する等、今後長期的な学びを意識した取り組みになるように工夫を考えていきたい。